

折に触れ 四字熟語

NO. 61 『盤根錯節』 ばんこん さくせつ

< 意味 > 物事が複雑に入り組んで、解決しがたいことのとえ。また、ある勢力がはびこって取り除きがたいたとえ。

< 出典 > 「後漢書」< 虞詡伝 >

「・・・詡笑曰、志不求易、事不避難、臣の職也、不遇槃根錯節、何以別利器佞乎・・・」

読み下し：『詡笑いて曰わく、志として易きを求めず、事として難を避けざる、臣の職なり、槃根錯節に遇わずんば、何を以て利器を別たん乎』

通 釈： 曲りくねった根や入り組んだ節を相手にしなければ、どうして切れ味鋭い刃物であることが分かりますか。(該当の部分のみ)

語 釈： 「盤根」は曲がりくねった木の根。「盤」は出典どおり「槃」とも書きます。「錯節」は入り組んだ木の節の意。

一 言： NO. 60の通釈のところで出ていた四字熟語です。

出典にある解釈と現在の使われている意味とでは少しばかり違いがありますね。

参考文献： 岩波書店「後漢書 第七冊」 三省堂「四字熟語辞典」